

第73回日本東洋医学会
関東甲信越支部学術総会
ランチョンセミナー

日時 2016年 10月16日(日)
12:00~12:50

会場 新潟ユニゾンプラザ5階
中研修室
(新潟県新潟市中央区上所2-2-2)

漢方薬の効果を 高めるための2,3の工夫

座長

笛木 司 先生

松花堂 マツヤ薬局

演者

並木 隆雄 先生

千葉大学医学部附属病院
和漢診療科 診療教授

共催：第73回日本東洋医学会関東甲信越支部学術総会／クラシエ 薬品株式会社

漢方薬の効果を 高めるための2,3の工夫

演者

並木 隆雄 先生

千葉大学医学部附属病院 和漢診療科 診療教授

漢方薬の使用において病名による漢方治療から入ることが多いが、本格的に漢方を運用しようとすると、多くの場合、基礎理論を知らないという壁にぶつかることが多いと思います。そのため、証による漢方薬治療(随証治療)に取り組むことになるかと思えます。一生懸命、漢方薬の証を知り、患者の所見を取ることをして、薬方と患者の証があっているはずなのにちょっとしたことで、漢方薬の効果がでないということがあるのをご存知でしょうか。

当たり前ですが、随証治療で漢方薬の効果が出るためには、

- 1)薬が患者にあっている(方証相対)。
- 2)薬の品質が問題ないか?
- 3)薬の飲み方があっているか?
- 4)患者が指示通り薬を飲んでいるか?
- 5)患者の内服時の生活態度がどうなのか?

など、様々な要因が影響します。せっかく随証治療をしている先生方のご処方が、医師側以外の要因2)~5)で有効性に差があることもあると思います。

私は、毎年、千葉市医師会と協力して千葉市内や大学の和漢診療関係の処方箋を受ける薬局に、レベルアップのための講演を数年間しています。そこには、当然、漢方薬(エキス・煎じ薬)を理解しようとしていらっしゃる熱心な薬剤師の方が多く集まります。そういう熱心な方々でも漢方薬の特殊性に関して知らないことだらけなのに驚かされます。そこでの経験から、漢方薬の服薬法を中心に先生方の臨床効果を上げるヒントをご紹介します。また、さらに千葉古方の多くの先生方から臨床上の工夫でお教えいただいたこともありますので、そのことも時間があればご紹介できればと思っています。

(当たり前の内容も多いので、おさらいだと思っていただければ幸いです)



交通のご案内

〈JR新潟駅からお越しの場合〉

タクシー約8分または、下記バスにて約10~20分
「ユニゾンプラザ前」下車、
徒歩約1分

新潟駅万代口バスターミナルのりば8番

- ・水島町經由美咲合同庁舎行
- ・県庁前經由西部営業所行
- ・県庁前經由曾野木ニュータウン・嘉木・酒屋車庫・小須戸行
- ・幸西・上所經由ユニゾンプラザ前・女池愛宕行